



【特別編】

県指定史跡中通古墳群

ながめづか
長目塚古墳

発掘60周年

阿蘇市教育委員会

学芸員 宮本利邦

今回は、今年で発掘調査60年を迎えた県指定史跡中通古墳群の長目塚古墳を特集します。

中通古墳群の位置

中通古墳群は、旧阿蘇町と旧一の宮町の境、高岳を上流とする東岳川と黒川上流の鹿漬川が合流する水田地帯にあります。

昭和34年に県の指定史跡となり、現在では2基の前方後円墳と8基の

円墳が墳丘の形を残しています。採集されている土器の破片や墳丘の形・規模などから、古墳時代中期頃（5世紀頃）に造られたものと推測されています。



中通古墳群遠景 (改修前の旧河川)
横断する川が東岳川、中央に写るのが長目塚古墳

古墳とは

古墳は、3世紀後半から7世紀前半までの間、北海道と沖縄を除く日本列島各地で造られた墳丘と遺体を納める石室構造を持つ墓のことをいいます。また古墳が造られた時代を「古墳時代」と呼びます。古墳の形・規模には規格があり、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などの基本形があります。古墳に葬られる人物の権力の大きさ

や地位によって古墳の形と規模が決められたと考えられます。

いわゆる大和王権の根拠地である近畿地方には、時期が古い巨大な前方後円墳が数多くあり、この地域を中心にして全国に古墳が普及していったと思われます。つまり前方後円墳に葬られた人物は、大和王権とつながりを持ち、それぞれの地域を統治したと考えられるのです。

学界に紹介された中通古墳群

中通古墳群をはじめとする阿蘇の古墳の存在は、すでに幕末頃に書かれた『蘇谷志料』や『蘇溪温古』に記録されていました。

明治になって学界に中通古墳群を紹介したのが、当時の文学博士中村徳五郎氏でした。

中村氏は、現地を踏査して詳細な記録を新聞紙上に連載されました。さらに大正13年には、連載文を加筆再構成した「阿蘇中部の旧跡及び古墳に就いて」という報告を『歴史地理』第43巻第6号に寄稿され、中通古墳群の重要性を学界に紹介されました。報告では、現在ですでに失われている小規模の古墳や

古墳の周囲にあった外堤の存在などが記載され、古墳の旧形状がわかる研究上重要な記録となっています。

発掘された王墓

長目塚古墳は、墳長111.5mの規模を持つ古墳群で最大の前方後円墳で、阿蘇地域の中でも格別の大きさで、県下の同時代の前方後円墳で最大の規模を誇ります。

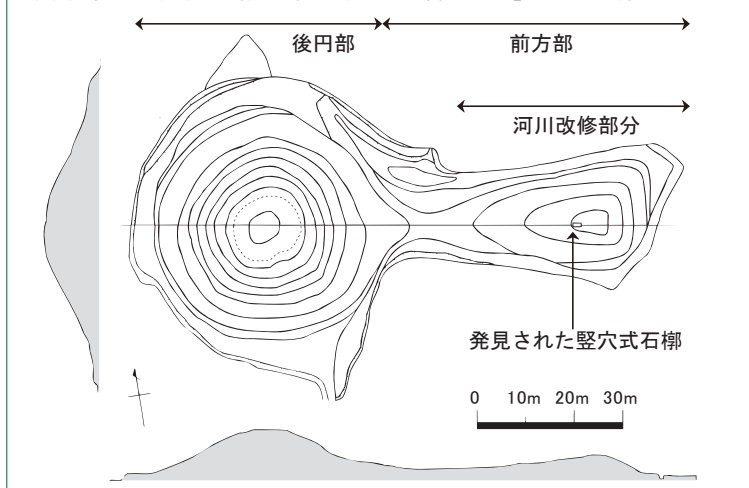
奈良時代に成立した『古事紀』『日本書紀』などの朝廷の記録では、阿蘇地域を治めた「阿蘇君」の記載があります。中通古墳群は阿蘇君一族の墓と推定され、その中で最大の長目塚古墳はまさしく「王墓」と呼べる存在です。

その「王墓」長目塚古墳が発掘されたのは昭和24年12月18日から28日までの11日間でした。

発掘のきっかけになったのは、昭和22年から24年にかけて頻発した豪雨による洪水災害でした。古墳群の中央を流れる東岳川の氾濫が激しく、長目塚古墳付近で屈曲する川を直線的に改修するため、古墳の前方部を切り通すことが必要となりました。

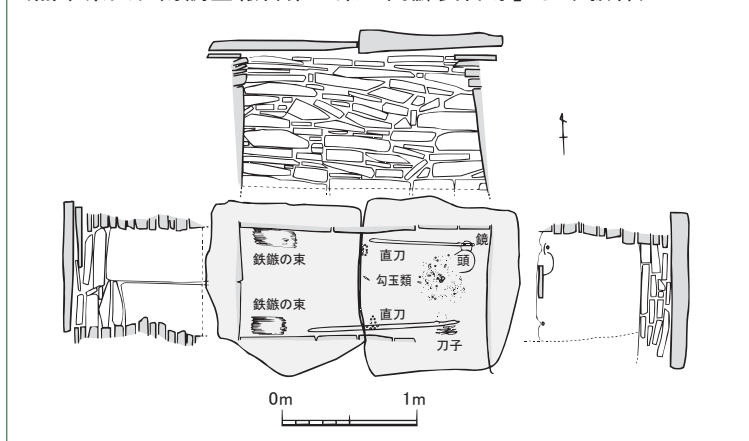
▼長目塚古墳測量図

(熊本県文化財調査報告第3集「阿蘇長目塚」より抜粋)



▼竪穴式石槨実測図

(熊本県文化財調査報告第3集「阿蘇長目塚」より抜粋)



【出土した品々】

(画像提供: 熊本県立装飾古墳館)



▲内行花文鏡



刀子▶



◀アクセサリー

地元中通村(当時)の河川改修の陳情を受け、熊本県教育委員会は当時の史跡名勝天然記念物並びに国宝重要美術調査員であった坂本経堯氏を中心とした調査団を組織しました。発掘調査は河川改修で失われる前方部を中心に進められ、また全体の地形測量も実施されました。調査の結果古墳の表面には葺石が敷かれ、埴輪が並べられていたことが分かりました。また前方部の頂上から埋葬施設で

ある竪穴式石槨が発見され、赤で塗られた内部には女性の人骨の一部と石製とガラス製のアクセサリーや銅鏡1面(内行花文鏡)、鉄製の太刀2本と複数の鉄鏃などが納められていました。王墓にふさわしい豪華な副葬品でした。

前方後円墳の埋葬施設は後円部分にあるのが一般的であり、当時発見されたものは副次的なものと考えられます。つまり発掘されて

いない後円部には、本来の被葬者が眠っている可能性が高いと思われる。その内部も古代阿蘇の王墓として相応しいものと想像されます。

世界文化遺産登録を目指して

現在、熊本県と阿蘇郡市で提案している阿蘇世界文化遺産登録において、阿蘇の古代文化を象徴する遺跡として中通古墳群を取り上

げています。

今後は長目塚古墳を中核とした古墳群全体の全容を把握するために、過去の調査の再整理や昭和24年調査時では不明であった部分の補足調査、また現地調査などを計画しています。

阿蘇の古代の記憶を留めた貴重な文化遺産である中通古墳群を未来に受け継ぐため、必要な調査研究を進めていきます。